

4. 深化シート インストラクション

- ① 「3. 把握シート」に書いた仮マイセンテンスと二重下線を書き写し、フェルトセンスを感じ直します。
- ② 仮マイセンテンスの二重下線部分を空所にして書き写します。
- ③ 二重下線の語をキーワード1とします。
- ④ キーワード1の一般的意味を書きます。自分で考えても辞書で調べてもかまいません。ペアやグループで実施している場合は、他の人の意見を聞いて書くのもよいでしょう。
- ⑤ ②の空所を感じ、キーワード1で表現したいフェルトセンスの意味感覚を書きます。一般的な使用法と異なってもかまいません。他人にわかるように書く必要もありません。フェルトセンスの微妙で複雑なところにこだわり、自分が表現したい感覚を自由に展開します。
- ⑥ フェルトセンスからは無限の語を引き出すことができますが、ある程度書いたら、最後に「、、、」をつけて終了します。これは、書ききれないという意味です。重要だと感じられる2、3の語句に波線を引きます。
- ⑦ ⑥で波線を引いた語句の中から、さらに探りたい感覚が最も強い語を選びます。選んだ語をキーワード2とします。
- ⑧⑨⑩ キーワード2について、キーワード1と同様に、一般的意味とフェルトセンスの意味を書きます。「、、、」をつけて終了します。
- ⑪ ⑩で波線を引いた語句の中から、さらに探りたい感覚が最も強い語を選びます。選んだ語をキーワード3とします。
- ⑫⑬⑭ キーワード3について、キーワード1と同様に、一般的意味とフェルトセンスの意味を書きます。「、、、」をつけて終了します。
- ⑮ 【 】の中に、3つのキーワードと波線を引いた語句を集めて並べます。
- ⑯ 集めて並べた語をながめながら、フェルトセンスを感じ直します。感じているフェルトセンスを一文で表現します。集めた語句のいくつかを組み合わせで表現してもよいでしょう。あらためて仮マイセンテンスを感じ直し、フェルトセンスをよく表現していると感じられる場合は、仮マイセンテンスをそのままマイセンテンスにしてもかまいません。
シートの「この感じは【 】という感じである」の【 】に書き入れます(この文をマイセンテンスと呼びます)。マイセンテンスを作ることにより、フェルトセンスの独自性が記憶しやすくなります。